

事業者向け 児童発達支援自己評価表(公表)

公表令和4年4月


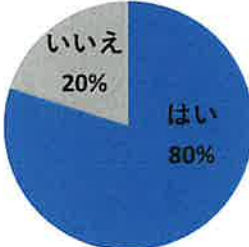
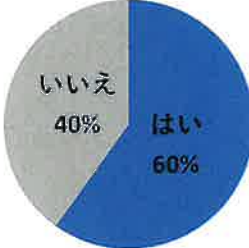
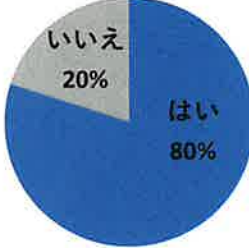
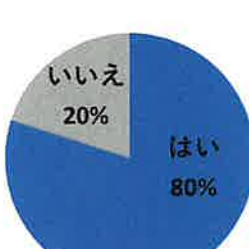
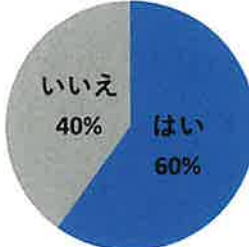

対象：児童発達支援担当職員 5名(回収率 100%)

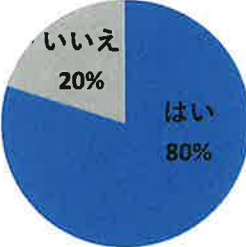

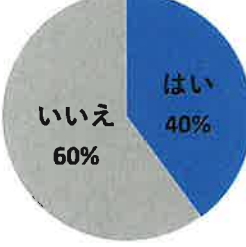

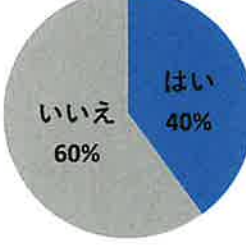


事業所名 あけぼの学園

	チェック項目	回答結果	・工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	<p>いいえ 60% はい 40%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちにとって安全かつ衛生的な環境となるよう物品を整理して療育の場所を確保している。コロナ禍になって尚更。</li> <li>・2階プレイルームを成人グループとパーティションで分けて使用しているため、スペースを広げることが出来ないのが現状である。</li> <li>・歩く、走るなど動ける子どもも増えてきたため、遊具を広げると十分なスペースがほしい。</li> </ul>
	② 職員の配置数は適切であるか	<p>いいえ 60% はい 40%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設全体として、生活介護事業も実施しているため、必要や状況により兼務で働いている場合もある。</li> <li>・個々の子どもの特性やニーズに応えられるよう、また、安全面に配慮するため、職員が足りない。</li> </ul>
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	<p>いいえ 50% はい 50%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーター、トイレ、フロアなどの設備はバリアフリー化している。トイレや流しにイラストを貼るなどの工夫をしているが、アコーディオンカーテンのみで区切られているため、音が全て聴こえる環境。また扉がなく、いつでも出入りできる環境は、子どもにとって切り替えができない。</li> </ul> <p>☆無回答1名</p>
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子供達の活動に合わせた空間となっているか	<p>はい 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちにとっての生活空間は、安全かつ衛生的な環境となるよう配慮している。特にコロナ禍において、プレイルームの使用前、使用后、また、玩具や活動物品にはアルコールや次亜塩素酸ナトリウムで拭き掃除など消毒、換気などを徹底して行っている。今後も定期清掃を十分に行っていく。</li> </ul>
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	<p>いいえ 20% はい 80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善は、毎朝・夕のミーティングで随時確認や検討をし、毎月の職員会議でその是非を決定し、周知徹底している。</li> <li>・学園内に「業務改善委員会」を設置し、適宜開催し、現状や課題を共有し、必要に応じて優先順位や対応策を協議して、提案している。</li> <li>・一定の職員しか関わっていない。</li> </ul>

	⑥	保護者等向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	<p>はい 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、ガイドライン保護者評価アンケートのほか、年度末に事業計画全般のアンケートを実施している。アンケート結果の報告とその対応について、保護者各位にフィードバックしている。</li> </ul>
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	<p>はい 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドライン保護者評価アンケートのほか、施設単独アンケートを実施し、結果報告とその対応について報告している。</li> <li>・第三者評価を定期的実施し、公表すると共に、改善すべき点は、学園として、また、必要に応じて法人と協議している。</li> <li>・今の時代に合った情報を発信できているかは検討し、改善を図っていく必要はあると思う。法人本部のホームページ掲載に向けて動いていることでさらなる周知を図る。</li> </ul>
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	<p>いいえ 40%    はい 60%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関による第三者評価を定期的実施し、公表すると共に、指摘事項や改善すべき点については、学園として、また、必要に応じて法人と協議し、対応している。</li> <li>・第三者評価は、今後も定期的受審していく。</li> </ul>
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	<p>はい 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人調書等も含め、主に「研修委員会」を通して職種や経験年数などを考慮して年間の研修計画を立て、実施している。</li> <li>・職員の希望を募る他に、人材育成や事業所として不足している分野の研修に積極的に参加させたい。</li> <li>・研修の機会はあるが、職種によって必要な内容であるかを、検討する必要がある。</li> </ul>
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	<p>はい 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に個人面談を行っており、その中で出た要望等を個別支援計画に反映している。</li> <li>・保護者には年度末に療育の意向を伺うなど、次年度に向けて、子どもの評価と併せて個別支援計画を作成している。</li> </ul>
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	<p>いいえ 50%    はい 50%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の公立及び法人立の重症心身障害児施設を対象に実施する実態調査に使用される個人チェックリスト等を用いている。</li> <li>・動ける子どもや聴覚障害のある子どもなど、重心の枠を超えた課題やニーズのある子どももいるため、参考にしにくい。</li> </ul> <p>☆無回答 1名</p>
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	<p>はい 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の子どもの特性を踏まえ、成長発達の課題や保護者の要望等に応じた個別支援計画を作成し、療育支援を展開している。</li> <li>・必要に応じて、社会福祉協議会、相談支援事業所等の関係機関との連携会議にも参加する。</li> </ul>

	<p>⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか</p>	<p>はい 100%</p>	<p>・個々の子どもの特性を踏まえ、成長発達の課題や保護者の要望等に応じて作成した個別支援計画に基づいて、具体的かつ継続的な療育支援を工夫しながら実施している。</p>
	<p>⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか</p>	<p>はい 100%</p>	<p>・活動プログラムは、毎月のグループ会で検討している。担当職員が輪番制でプログラム案を提示し、検討され、グループで決定した内容で組織的に実施している。</p>
	<p>⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか</p>	<p>はい 100%</p>	<p>・活動プログラムが偏らない様に配慮するため、また、個々の子どもにとっても同じ内容にならないように配慮している。 ・具体的には、子どもの特性や興味関心などを考慮した上で、遊具、製作、季節に合わせたものを取り入れている。</p>
	<p>⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか</p>	<p>はい 100%</p>	<p>・重症児の場合、より個別的な関わりが重要な面と、子どもの成長発達の過程における子ども同士の関係性にも配慮した支援計画や支援プログラムを作成している。 ・現在は、コロナ禍において、短縮にて、午前中だけの事業となっているため、グループ活動を中心に行っている。</p>
	<p>⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか</p>	<p>はい 100%</p>	<p>・毎日、朝のミーティングにおいて、当日予定する活動プログラムの内容と役割分担、及び子どもの特性を踏まえた支援の在り方、配慮などの確認を行っている。 ・気が付いた点、気になる点などがあれば、その都度話し合い課題を共有し、解決すようにしている。</p>
	<p>⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気が付いた点等を共有しているか</p>	<p>はい 100%</p>	<p>・毎日、夕方のミーティングにおいて、当日実施した活動プログラムの内容と子どもの反応(動き)や保護者の反応、また、次回以降の留意点などの確認を行っている。 ・気が付いた点、気になる点などがあれば、その都度話し合い課題を共有し、解決すようにしている。</p>
	<p>⑲ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか</p>	<p>はい 100%</p>	<p>・グループ内の所定の各記録用紙の項目に沿って記録することを徹底し、毎月のグループ会議で個々の子どもの支援状況を点検し、振り返り、さらなる支援の改善に繋げている。</p>

	<p>⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか</p>	 <p>はい 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半年に一回、モニタリングを実施し、支援内容や支援計画の見直しを行っている。</li> </ul>
	<p>㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか</p>	 <p>はい 80% いいえ 20%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援事業所はじめ、関係施設や機関との連携は十分とは言えず、学園としての課題と認識している。</li> <li>・担当職員が適時参加できるように極力配慮している。</li> </ul>
	<p>㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか</p>	 <p>はい 60% いいえ 40%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健や子育て支援関係者をはじめ、関係施設や機関との連携は十分とは言えず、学園としての課題と認識している。</li> <li>・各区の所管部署や関係機関との情報共有など連携を密にし、必要に応じて他の関係機関とも連携できるよう行動していく。</li> </ul>
	<p>㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか</p>	 <p>はい 80% いいえ 20%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所など複数の施設を利用している子どもも多くなっており、今後さらなる連携が必要と考えている。</li> <li>・関係機関からの問い合わせや、特別支援学校との意見交換、見学など必要に応じて対応している。</li> <li>・保育所や関係機関・事業所などの見学や情報交換の場などにも積極的に関わっていきたい。</li> </ul>
関係機関や保護者との連携	<p>㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか</p>	 <p>はい 80% いいえ 20%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主治医や医療関係機関と直接的なやり取りはないが、必要に応じて情報提供などを行っている。入院時に医療機関からサマリー等で情報の把握に努めている。</li> <li>・利用契約時に、子どもの主治医に保護者を通じて診療情報提供書や医療的ケア指示書をいただいている。また、保護者には医療的ケアの変更がある場合、改めて医療的ケア指示書をいただいている。</li> </ul>
	<p>㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか</p>	 <p>はい 60% いいえ 40%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所など複数の施設を利用している子どもも多くなっており、今後さらなる連携が必要と考えている。</li> <li>・関係機関からの問い合わせや、特別支援学校との意見交換、見学など必要に応じて対応している。</li> <li>・保育所や関係機関・事業所などの見学や情報交換の場などにも積極的に関わっていきたい。</li> </ul>
	<p>㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか</p>	 <p>はい 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都や各区の教育委員会や学校、行政などと入学前や、入学後に就学支援相談資料を作成し、文書による情報提供や、情報交換の場による引き継ぎを行っている。</li> <li>・情報共有の機会がさらに増えることを願っている。</li> </ul>

	<p>②⑦ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国から委託を受けた療育機関の療育研修会や、東京都や区が主催する発達専門研修会や講習会に職員を派遣している。</li> <li>・コロナ禍であるが、様々な関係機関等との連携をさらに強化していく必要があると認識している。</li> </ul>
	<p>②⑧ 保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所など複数の施設を利用している子どもも多くなっていることから、保育所や関係機関・事業所などの見学や情報交換の場などにも積極的に関わっていきたい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の予防防止を考慮した工夫した交流の機会を設けることが課題となっている。</li> </ul>
	<p>②⑨ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・区主催の自立支援協議会に参加している。</li> <li>・その他、関係する子どもの発達支援として、「すこやか福祉センター」「相談支援事業所」等の関係機関との連携会議にも参加する。</li> <li>・今のところ参加の機会はないが、機会があれば参加したい。</li> </ul>
	<p>③⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子通園の利点を生かし、リアルタイムで保護者と子どもの情報を共有しながら、保護者と一緒に療育を行っている。</li> <li>・また、保護者から、家での様子を聞くことが出来ている。</li> <li>・必要に応じて、電話やメール等で情報交換や相談に応じている。</li> </ul>
	<p>③⑪ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子通園の利点を生かして、保護者とその家族、きょうだい、また、保護者同士の交流など、今後の課題として、さらに工夫していききたい。るが、まだ不十分だと思う。</li> <li>・聴覚障害のある子どもに対して、手話やマカトンサインでの支援を行っている。</li> </ul>
<p>保護者への説明責任等</p>	<p>③⑫ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針や運営規程、苦情窓口など玄関エントランスホールの壁にも表記し、理解できるように配慮している。</li> <li>・利用契約時など、園長やソーシャルワーカーが中心に行っているが、分かりやすい資料があるとさらに良いと思う。</li> </ul>
	<p>③⑬ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年度初めに子どものアセスメントや子どもの特性や課題、保護者の要望等を踏まえて個別支援計画を作成し、保護者に個別支援計画書を提示し、支援内容を説明し、同意を得て療育活動を実施している。</li> </ul>

<p>③④</p>	<p>定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子登園のため、毎回の登園でリアルタイムに子どもの成長や課題を共有し、相談にも助言等の支援を行っている。</li> <li>・また、必要に応じて電話やメール等でも連絡を取り合っている。</li> </ul>
<p>③⑤</p>	<p>父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、さらに難しい状況ではあるが、依頼された場合には、学園として出来る範囲の支援をしている。</li> <li>・保護者同士の連携は、同じ通園日に会った機会に交流することができているが、全員集まったの連携は難しい状況ではある。</li> </ul>
<p>③⑥</p>	<p>子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談の内容によるが、グループ職員内はもちろん、必要に応じて主任や園長へ報告し、指示を仰ぐなど、迅速かつ適切な対応に努めている。相談には、園長を通じ、速やかに対応している。</li> <li>・通園時に直接の相談、各種アンケート等でいただいた相談や申し入れについては、迅速に対応するよう努めている。</li> </ul>
<p>③⑦</p>	<p>定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に、「年間事業計画」等で活動概況や行事予定等をお知らせしている。</li> <li>・日常的には、通園時の相談や電話で情報交換しているが、「学園だより」「活動カレンダー」を月間発行し、活動概要や行事予定、トピックスなどを掲載している。</li> <li>・今後、法人内の学園のホームページを充実させていきたい。</li> </ul>
<p>③⑧</p>	<p>個人情報の取扱いに十分注意しているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・当法人の個人情報保護規定の周知徹底を図り、個人ファイルを保管する棚は施錠管理が徹底されている。</li> </ul>
<p>③⑨</p>	<p>障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の特性に応じた対応を心掛けている。</li> <li>・職員は、利用児の些細な動きから発信される意思を汲み取る観察力と洞察力を養う努力をしている。</li> <li>・保護者から子どもの情報をいただき、また、子どもの状況から絵カードや手話でコミュニケーションを図ることがある。</li> </ul>
<p>④⑩</p>	<p>事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去には、建物の一階診療所にコミュニティエリアを設け、AED や自動販売機の設置により、憩いの場を提供してきたが、施設のスペースや利用児者の特性から、感染拡大しないように配慮したうえで、今後も慎重に対応していく。</li> <li>・学園の課題であると認識している。</li> </ul>

非常時等の対応	④① 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	はい 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害等の緊急時対応マニュアルや感染症対応マニュアル等を配布、周知すると共に、疑問点には丁寧に説明を行っている。</li> <li>・防災訓練は毎月1回、定期的を実施している。</li> </ul>
	④② 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	はい 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回、定期的を実施している防災訓練には親子で参加していただいている。</li> <li>・引き続き、様々な場面を想定した訓練を計画的に実施する。</li> <li>・消防署の立ち合いの訓練や福祉避難所としての対応訓練も実施したい。</li> </ul>
	④③ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	はい 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者より、変更点を含め、確認できている。</li> <li>・保護者への聞き取りや主治医の「医療的ケアの指示書」から情報を得て一覧表にまとめ、日常的に確認出来ている。</li> </ul>
	④④ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	はい 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず、アレルギー検査、診断書を提出してもらい、対応できている。</li> <li>・アレルギー検査を受けていただき、医師の指示書により、情報共有できている。</li> </ul>
	④⑤ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	はい 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットに類する事案が発生した際には、まずは園長等へ報告し、指示を仰ぐと共に、必要な対応をする。その上で、「インシデント・アクシデントレポート」を作成し、ミーティングで報告し、職員間で共有し、今後の予防・防止策に活かしている。</li> </ul>
	④⑥ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	はい 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権擁護委員会が中心になり、「虐待防止チェックリスト」を年2回、自己チェックし、集計を基に職員間で評価を実施するなど、常に振り返りを行うように努めている。</li> <li>・東京都の「人権擁護研修」を順番に受講している</li> </ul>
	④⑦ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	はい 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束はしていない。</li> </ul>